

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興監経営支援課 農業普及推進室 まとめ
令和3年5月14日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稻	<ul style="list-style-type: none"> 一部で霜による葉の褐変や苗立枯病の発生が報告されているが、4月の日照時間は平年に比べて多く、水稻育苗は全般には順調である。 農業試験場5月11日移植水稻の苗質調査では、「ひとめぼれ」の苗乾物重は平年より重く、葉齢は平年並、草丈はやや短く、葉色はやや淡い傾向であった。「コシヒカリ」の苗乾物重は平年より重く、葉齢および葉色は平年並、草丈は短い傾向であった。 田植は4月下旬から開始されており、目立った障害は報告されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 育苗や、田植前後の栽培管理について稲作技術情報を通じて、主に関係機関に周知している。
	麦	<ul style="list-style-type: none"> 中部地区「しゅんれい」の出穂期は3月28日～4月8日頃、穂数は平年並～やや少ない傾向。一部で網斑病の発生や、雑草の発生が多いほ場が見られる。10月下旬播種ほ場の一部では成熟期を迎えている。 農業試験場11月6日播種「しゅんれい」の出穂期は4月1日で、過去5年平均と比較するとほぼ平年並であるが、過去10年平均と比較すると7日早かった。穂揃期は4月5日でやや早く、穂数は平年比やや少ない。4月下旬の強風で一部倒伏が見られる。出穂後防除は適期に実施し、網斑病の発生は抑えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期からの積算気温による収穫適期予想は、平年に比べて3日程度早まっており、11月上旬播種の「しゅんれい」の収穫適期は5月30日～6月1日頃となる見込み。 向こう1か月の天候は、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されており、収穫に適した日が少なくなることが予想されるため、播種が早いほ場から順次収穫を行うなど、適期収穫を励行する。 適期収穫などについて麦作技術情報を通じて主に関係機関に周知している。
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> 「二十世紀」の平均的な交配日は4月3日(平年:4月15日)で平年より12日早かった。 霜、雹等による被害が出ている地域もある。 *降霜(4/10、4/11、4/15)、雹・ミズレ(3/22、4/18)、強風(3/28、4/12、13、16、17) *5月14日の園芸試験場の作況調査では(ゴールド二十世紀)、前年より10日早く、平年より8日早い生育。 	<ul style="list-style-type: none"> 霜や雹による障害果もあるため、良果を吟味しながら摘果し、品質と収量を確保する。 黒星病等の多発生に注意を行い、防除管理の徹底を行う。 ジョイント苗等の苗木には、灌水を実施する。
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> 河原試験地では、展葉初めが「輝太郎」4月3日(平年4月6日)、「西条」4月4日(平年4月10日)、「富有」4月4日(平年4月9日)で、平年より3～6日早い生育。 4月10日、11日の降霜により若芽の変色や枯損等の霜害が観察される地域もある(河原試験地など)。 着蕾数は平年並～やや多めだが、花御所で少ない園がある。 目立った病害虫はないが、霜害を受け減収する地域がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 摘蕾、摘花作業を計画的に実施する。 強風後は灰色カビ病対策の防除を行う。 例年カメムシの発生が見られ始める時期であるので注意を行う。 輝太郎の苗木には、灌水を実施する。
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> デラウェアの後期ジベ処理、巨峰・ピオネのジベ処理時期となっており、平年よりやや早い生育となっている。 病害虫や気象災害等大きな問題は発生していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平年よりやや早めの生育が予想される。
野菜	すいか	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス】交配は北栄4月7日、倉吉4月10日、琴浦(縞系)4月6日、がぶりこ4月15日から開始され、交配日によっては変形果も散見されるが着果数は概ね確保できている様子。アブラムシやうどんこ病が一部で見られるもの目立った病害虫の発生は見られない。 【トンネル】4月28日～5月2日頃の交配は花粉発芽率が低く、着果も不安定だった。雌花の子房が小さいものや花粉の出が悪いものも散見され、交配に日数のかかる圃場も見られた。5月4～5日以降は交配・肥大も順調に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス】引き続き病害虫防除の徹底を呼び掛ける。 【トンネル】交配を継続中、交配後はかん水、防除を行う。
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】一本ねぎの収穫はほぼ終了。坊主不知の収穫が5月上旬から始まっており、抽苔程度は例年並～やや多い。分けつは例年より多い傾向。 【夏ねぎ】生育は概ね順調。 【秋冬ねぎ】定植作業が進んでいる。定植後の生育は順調。 	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】次年度産の播種が始まるが、高温の長期予報が出ているため、高温による発芽不良に注意するよう呼びかける。 【夏ねぎ】さび病、べと病、萎凋病などの防除を呼びかける。長雨に対する排水対策の徹底を呼びかける。 【秋冬ねぎ】ネギアザミウマの防除を呼びかける。夏越しに向けた施肥・粒剤散布を計画的に行うよう呼びかける。長雨に対する排水対策、病害防除の徹底を呼びかける。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 「鱈鱈」の生育が昨年より5～7日程度早い。ポトニングが少なく、秀率も高い。アブラムシは前年よりも少ないが、アザミウマがやや多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 出荷のピークは5月下旬から6月上旬になる見込み。梅雨入りが早く、梅雨が長くなることが予想されるため排水対策を徹底すると共に、黒腐れ病の防除を徹底する。初夏どりについて、アブラムシ防除を1回は行うよう呼びかけている。おはようについては、軟腐病が例年多いため出蕾前と出蕾直後の2回防除を呼びかける。
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> 【福部地区】5/7調査分 一球重6.8g(平年比112%)、分球数288球/m²(前年比93%)等、平年並みとなっている 【北栄地区】5/10試験掘り 大玉系:1株球重56.0g(平年比100%)、分球数6.6球(同83%)、1球重8.4g(同117%) 分球数も同じ傾向 5/15より共乾で収穫開始、やや小ぶりだが少ない傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 【福部地区】豊作年であった前年と比較すると1割程度の収量減となる見込み。初販売は5月24日(月)の予定 【北栄地区】初販売は5月20日(木)の予定
	トマト(促成)	<ul style="list-style-type: none"> 5月9日時点での累計出荷量6912.5ケース(前年比109%)。早い定植のものは現在3段目収穫中であるが、着色が進まない「段切れ」状態に入っており、出荷量が少し減少しているところ。 病害虫は灰色かびが発生している圃場があり、一部の圃場ではアザミウマの発生が見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 防除の励行。 近年、5段目果房の強日射によるつやなし果が発生しているため、発生防止のため遮光ネットをかけてもらっている。
	アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ハウス作型は立茎が進んでいる。露地作型は5月上旬より立茎が始まるほ場が増えてきた。例年より1週間程度早めに収穫は進んでおり、立茎も同じく早めに開始している農家が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス・露地とも立茎開始と同時に防除が必要。
	ながいも	<ul style="list-style-type: none"> 【長芋】4月下旬より定植開始、GWピークで、ほぼ終了。 【ねばりっこ】4月3日より定植開始、ほぼ終了。4月上旬定植分は出芽が確認されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜出芽するので、早めの管理を行っていく。
	いちご	<ul style="list-style-type: none"> 生育は概ね順調。アブラムシおよびハダニ発生が散見され防除指導を行っている。うどんこ病の発生は例年より少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 出荷状況は終盤に入っている。羽合苺部会での出荷は6月上旬頃までの見込。
にんじん(春どり)	<ul style="list-style-type: none"> 不織布の被覆除去は例年並の4月下旬から行われた。病害虫の発生はない。生育は順調。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年どおり6/10頃の出荷となるが、一部圃場で早めの収穫が予想される。 	
花き	シンテツポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> (露地季咲き作型) 慣行品種のF1オーガスタから他品種への変更を行い、発芽、初期生育は順調。 【東部地区】 【鳥取市】 例年並みの4月下旬から5月上旬にかけて定植した。 【八頭町】 例年並みの4月下旬から5月上旬にかけて定植が行われ、生育は順調。 【倉吉市】 季咲き作型の地床育苗のものは5月8日頃から順次定植中。本葉5枚程度。 【北栄町】 盆作型は3戸が栽培中で、概ね順調に生育。彼岸出し1戸は育苗中。 	<ul style="list-style-type: none"> (露地季咲き作型) 葉枯病の防除を徹底するとともに、ユリクビナガハムシの発生に注意し、適宜防除する。 長雨に備えて排水口の点検等排水対策の再確認する。
		<ul style="list-style-type: none"> (ハウス抑制作型) 慣行品種のF1オーガスタを播種したが、昨年同様発芽状況が悪い。 【中部地区】 【倉吉市】 現在育苗中で、本葉が見え始めたところ。発芽率が悪く、成苗率が6～7割程度。 【北栄町】 ハウス抑制作型は8戸(うち倉吉1戸)+苗受託者が育苗中。補植は、早い生産者(3月下旬出庫)は4月28日頃から、遅い生産者(4月中旬出庫)は5月10頃から開始している。発芽状況は非常に悪い。補植で予定していた育苗枚数より減る生産者が多くみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> (ハウス抑制) 可能な範囲で補植を行い、液肥を施用する。 苗の生育が弱いため、過湿や過乾燥とならない様、遮光や灌水の仕方に気を付ける必要がある。 慣行品種のF1オーガスタの発芽状況が悪いため、品種の変更を検討中。
	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 【智頭町】 例年より生育が7～10日程度早いのが、4月の夜間の低温等の影響により、やや生育が停滞ぎみとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月下旬には一部で葉枯病の発生が見られ、防除を助言している。 今後の長雨により病害が助長されるため、防除対策を徹底する。
トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> 【中部地区】 【北栄町】 盆前出荷用に2戸が4月下旬～5月10頃にかけて定植した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定植後の活着や生育促進のため、適度なかん水を行う必要がある。 	
畜産	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯地区】 早播き(4月下～5月上)ほぼ終了 【大山区】 4月下旬から播種開始 	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯地区】 イタリアンライグラスとの二期作ほ場はイタリアンライグラス収穫後に播種する。 【大山区】 5月中旬に播種を終える見込み
	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯地区】刈取中 (東伯:一番ほぼ終了、北栄:刈取中) 【大山区】 4/20～現在1番草収穫中、昨年と比べ、草丈が短い状況で(平均92cm) 出穂している(昨年平均114cm) 	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯地区】 2番草以降刈り取り予定 【大山区】 5月中旬に1番草の収穫は完了する見込み
その他	農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年5月13日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、暖かい空気に覆われて1週目、2週目(5月15日から28日)の気温は高く、3～4週目は平年並か高く、また向こう1か月を平均した気温も高いと予想されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 春は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症に注意する。 体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。 特に農業用ハウス内での作業には注意が必要。 天気予報や熱中症警報などの情報をもとに作業を計画し、気温・湿度の高い日や時間帯を避けて作業を行う。 農作業の前後、農作業中はこまめに休憩をとり、水分を十分補給する。また、水分と合わせて塩分の補給も行う。 気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。 マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。